

ひとつだにあることなし、つらう思遣り奉るに、中昔の書をもに、皇子の中にて皇太子に立て給ふべき玄たがたにかしづき給ふを、坊がねと稱せるに似たるを、古は其崇稱を儲て、然は大兄と稱せる例のありしにこそト云ヘリ、以テ参考ニ供ス、

〔日本書紀^{三十持統}〕三年四月乙未、皇太子草壁皇子尊薨、

〔萬葉集^二挽歌〕日並○並^下恐皇子尊^壁草殯宮之時、柿本人麻呂作歌、

天地之初時之○^略吾王皇子之命乃天下所知食世者○^略下

〔萬葉集^二挽歌〕高市皇子尊城上殯宮之時、柿本人麻呂作歌○^略歌

〔續日本紀^{六元明}〕和銅六年五月甲戌、讚岐守正五位下大伴宿禰道足等言○^略故皇子命宮^壁草^下撿括

飼丁之便誤認亂等爲飼丁焉○^略下

○按ズルニ、皇子尊モ亦大兄ト同ジク、古ヘ皇太子ノ崇稱ナリシガ如シ、

〔運歩色葉集^一〕東宮、春宮、皇太子事

〔毛詩註疏^{三之}〕齊侯之子、衛侯之妻、東宮之妹、邢侯之姨、譚公維私^傳子居東宮、因以東宮表太子也、正義曰、太子、

〔八雲御抄^{三下}〕春宮 はるのみや あをき宮 みこのみや まうけのみや

〔大唐皇帝述三藏聖教序記^跋〕皇帝在春宮日製此文、龍朔三年歲次癸亥六月癸未朔二十三日乙巳建、大唐褚遂良書在同州倅廳、

〔新野問答〕春宮并東宮

東宮春宮此二品いかゞ覺悟候哉、答定^{野宮} 東宮は、皇太子の御身の上を書申候時、東宮と書申候、春宮は、坊に奉仕傅大夫亮進役の官の名を書申候、ひつきやう二字共に同心にて候、東春二字ともはじめ又は一の心にて候、歌には春の宮とよみ申候、

〔雜問答考〕東宮春宮と書事